

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第58号
2021(令和3)年10月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

緋の基本技法

— 経緯緋の工夫緋 —

大和機による作品は、今回で4作目になります。1作目は「経縞伊達緋(たてじまだてがすり)」、2作目は「緯緋の工夫緋(よこがすりのくふうがすり)」、3作目は縞の間隔を変えてアレンジした「緯緋の工夫緋」。そして、今回の4作目は「経緯緋の工夫緋(たてよこがすりのくふうがすり)」です。これで縞(しま)、伊達緋(だてがすり)、工夫緋(くふうがすり)、経緋(たてがすり)、緯緋(よこがすり)という、緋の基本型を自分で設計、整経し、織りあげることになります。現在、製織技術を学んでいる相楽木綿伝承館機織り教室では、紡績糸を用いることが原則となっています。大和機による緋織りの基本技法を身につけた上は、いよいよ手紡ぎ糸による緋織りへと歩みを進めていくことになります。

織りのスピードについては、以下の資料が参考になります。相楽木綿について調査をした奥村萬亀子「南山城地域の自家用織物と相楽木綿」『京に「服飾」を読む』(染織と生活社 1998年)には、聞き取り調査の結果として以下のように記されています。なお、使用織機が大和機であるのか飛び杼式高機(当地における通称はチョンコ機。チョンコは杼が飛ぶ際の擬音語)であるのかは不明です。

Mさん、明治四十四年(一九九一)生、調査当時七十七才、女性。相楽郡木津町吐師在住。「実家は織物の盛んな大里であったから、娘の頃から織り方は親に教わり、無地、縞、緋など相楽木綿を織った。一日に無地もの二反織らないと一人前でないといわれた。朝から晩まで織るだけで縞なら一反半、緋はむつかしいので半反ぐらい。一匹織るのに三〜四日かかる。嫁いできてからも織った。戦争前、糸がまわらなくなってから機織はやめた。木綿織に代り蓆織をするようになった。」

Kさん、Lさん。相楽郡木津町吐師在住。「吐師は賃織の盛んなところだった。(当時は相楽村は相楽と吐師の大字に分かれ、大字相楽はさらに曾根山、大里、北ノ庄に区分された)相楽に木綿屋さんが数軒あって、賃織に出していた。この地域では農閑期の副業は織だけで、他の仕事はなかった。母親(Kさんの。明治九年(一八七六)生)も相楽織をしていた。明治から大正十年(一九二一)ぐらいまで織っていた。大正五〜六年頃はどんどん織っていた。織り屋からは緋に染めて織ったらよいようにして持ってくる。つまり、ちきりに巻いて持ってくる。横糸は緋にくくってあるので家で緋糸をほどく。緋は一反織るのに三日ぐらいかかる。一匹織るのに一週間ぐらい。むずかしい柄の時には半月ぐらいかかるものもある。織機は足踏みや足踏みにひっぱりをついたものであった。

賃織の工賃は、 縞(経縞) 一匹 一円
緋 一匹 一円五十銭
白木綿(一尺三寸ほどの幅) 一匹 五十銭
副業としては月に二〜三円ぐらいの収入になった。」(294頁)



経緯緋の工夫緋の織り付け

ちなみに一匹とは二反のこと。『改訂天理市史』下巻(1976)には、「機織の一人前の一日の仕事の量は四反であった」(339頁)とあります。

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和3年9月24日〜令和3年10月23日)
大阪府2、奈良県1、広島県1、沖縄県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和3年9月24日〜令和3年10月23日)

メールを含む各種相談件数3、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数8件13名



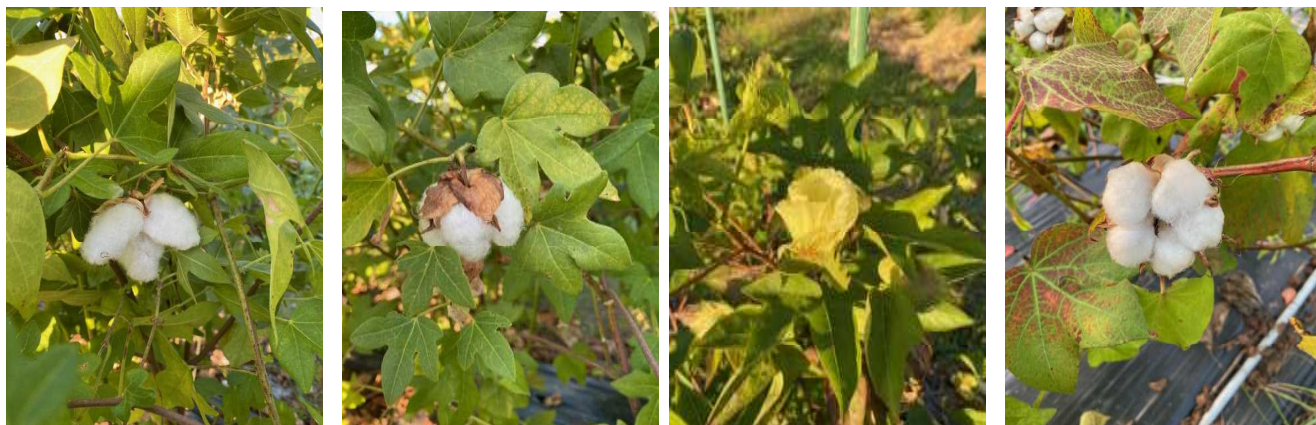
《綿の栽培記録 2021》－ 令和3年度版 その9－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。
△:×=曇り一時雨。

9月27○、28△|○、29△|○、30△、10月1○、2○、3○、4○、5○、6○、7○、8○、9○、10○/△、
11△/×、12○、13○、14○、15○、16○/×、17×/○、18△|○、19△/×、20×/△、21○|△、22○、
23○、24○、25×、26○|△。

収穫最盛期を迎えた9月下旬以降、晴天の日がつづき順調に収穫することができました。そして、10月中旬を境にピークを過ぎ、収穫量は明らかに減ってきました。今シーズンの綿の収穫も終盤を迎えました。季節が進むにつれて花や実の大きさが小さくなっていく傾向は、洋綿において顕著です。

写真は左から1号畑の和綿エリア、同じく和綿エリア、1号畑の洋綿エリアの花、洋綿アブランドのコットンボール



《大和機の綜統(もじり)通し、箄(おさ)通し、機掛け — 作品No.4 — 》

経糸728本で、綜統通しに約8時間、箄通しには約5時間半を要しました。綜統通しと箄通しを慎重に行うことで、機掛け、織り付け時のトラブルはありませんでした。

写真は左から綜統通しを了えたところ、箄通しの様子、箄通しを半分ほど済ませたところ、経糸を機に掛けたところ



【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

・糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成30年, 2018年産。丹羽正行氏による打ち綿)

9月24日～10月23日 (作業実日数13日) 糸の総量30.9g (8.2匁) 総時間126分 (2時間6分)

※1分間≒0.245g 1時間≒14.7g (3.9匁)

【研修等の記録】

- ・令和3年10月03日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、作品No.4の箄通し。
 - ・令和3年10月10日 「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、作品No.4の箄通し、機掛け。経緋糸糊付。
 - ・令和3年10月14日 (株)養徳社制作YouTube『木綿の郷』にて、「#2 綿打ち、糸紡ぎ」が配信される。
 - ・令和3年10月16日 読売新聞系列月刊情報誌『Yomiっこ』11月号 (Vol. 239) にて木綿庵が紹介される。
 - ・令和3年10月26日 研究誌『天理教校論叢』第46号に、「教祖伝の時代と大和の綿作」が掲載される。
- ※令和3年09月01日 YouTube koichi hozan『奈良 時の雫』の「和綿」にて木綿庵の綿畑が収録される。